

厚生科学研究費補助金（障害保険総合福祉事業）

分担研究報告書

高齢者のアルコール依存症スクリーニングテスト（KAST-G）の開発に関する研究

分担研究者 白倉 克之

研究要旨 我が国の社会の高齢化、飲酒習慣の変化に伴って以前では飲酒問題が存在しないと考えられていた高齢者にも若年者と同程度の割合で問題飲酒者が存在することが知られている。従来のアルコール対策は就労年齢者を対象として対策が講じられてきた。従って高齢者の飲酒問題は注目されることも少なく、対策はほとんど講じられていない。今後高齢者人口の増加に伴い高齢者のアルコール関連問題が社会問題化する可能性が充分にある。高齢者の飲酒問題への対策を講じるにあたってまず必要となるのは問題飲酒者のスクリーニングである。本研究では高齢者のスクリーニングテストを開発することにある。今年度はテストの開発に必要な基礎的なデータを収集・集計した。

研究協力者

樋口 進 国立療養所久里浜病院
臨床研究部長

松下幸生 国立療養所久里浜病院
精神科医長

したテストは、我が国のみならず諸外国にも数少ない。今後の高齢化社会における飲酒問題への対策を講じる上でこのようなテストが必要となる。

A. 研究目的

社会の高齢化に伴って高齢者においても問題飲酒者が増加していることは既に明らかである。本研究は、高齢者における問題飲酒者を抽出することを目的としたスクリーニングテストの開発を目的とする。問題飲酒者のスクリーニングテストは既に複数存在するが、これらはいずれも若年・壮年者を対象としたものである。

一般的に飲酒行動は加齢に伴って変化し、飲酒に関連した問題も高齢者では若年者と異なることが知られる。従って、既存のテストを高齢者に適応してもテストの信頼性そのものに問題が生じてしまう。しかし、高齢者を対象と

B. 研究方法

1) 研究対象

1,104名の健常高齢者（男性564名、女性540名）および60名の高齢アルコール依存症者(全例男性)を対象とする。健常高齢者の平均年齢は 66.5 ± 5.1 歳、高齢アルコール依存症者の平均年齢は 74.3 ± 6.0 歳である。健常高齢者は神奈川県下のある一つの市にある老人クラブの協力を得た。DSM-III-Rに従った半構造化面接にてある依存症ではないことを確認した者である。高齢アルコール依存症者は、全例国立療養所久里浜病院に入院した症例であり、アルコール依存症の診断はDSM-III-Rに従った。

2) 調査方法

別表に示すような飲酒に関連した質問票を作成した。これらは、久里浜式アルコール依存症スクリーニングテスト（KAST：14問）、CAGE（4問）、MAST(25問)といった既存のスクリーニングテストの質問項目を含んでいる。対象者に35の新たに作成した質問項目を含む78問から成る質問票に回答してもらい、その結果を集計した。なお、この質問票には飲酒とは直接関連のない2問が含まれている。これらは質問票の妥当性を検討する目的で加えられたものである。データの集計にはSAS(Statistical Analysis System)を用い、統計学的有意差の検定には χ^2 検定を用いた。

C. 調査結果及び考察

健常高齢者と高齢アルコール依存症者における質問項目への回答の差を検定した。その結果、

問50(自分の知らないことを知らないと認めるのは気にならないですか)、

問53(たとえ気に食わない人についても礼儀正しくしていますか)、

問57(高血圧と診断されたことがありますか)、

問59(脳出血または脳梗塞になったことがありますか)、の4問を除くすべての質問項目に健常高齢者と高齢アルコール依存症者との間で統計学的な有意差が認められた。問50、53に関しては飲酒とは関係のない質問項目であり、対象者の回答姿勢をみる目的で質問票に加えられたものである。

また、健常高齢者から男性のみを取

り出して高齢アルコール依存症者と比較したところ、上記の4問に加えて、問63(胃の手術をしたことがありますか)で、統計学的に有意であるが、他の質問項目より若干弱い有意差($p = 0.0015$)がみられた。

これらの質問を除いたものは、いずれも統計学的に有意差を両群間に認めており、アルコール依存症のスクリーニングテストに含まれる質問項目として適当であると思われる。

スクリーニングテストの開発にはいくつかのステップが必要である。本年度は、質問票の作成、健常者・高齢アルコール依存症者を対象とした調査を既に終了した。今後はこれらのデータをもとに統計学的に両者の差を最も効率良く抽出する質問項目を10問程度選択し、両者を判別する点数評価の決定を行ってスクリーニングテストを完成させる作業を行う。本報告書では、その中間報告として簡易統計計算を行い、その結果を報告した。

・【質問票】

あなたの過去6か月間のことについておたずねします。

すべての質問に「はい」か「いいえ」のどちらかに○印を付けてください。ただし、15番の質問については、3つの回答の中から1つお選びください。

- | | |
|--|--------------------|
| 1. 飲酒量を減らさなければならぬと感じたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 2. 他人があなたの飲酒を非難するので気にさわったことがありますか。 | はい・いいえ |
| 3. 自分の飲酒について悪いとか申し訳ないと感じたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 4. 神経を落ち着かせたり二日酔いを治すために、「迎え酒」をしたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 5. 今までに仮病を使ったことがありますか。 | はい・いいえ |
| 6. 酒が原因で、大切な人（家族や友人）との人間関係にひびがはいたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 7. せめて今日だけは酒を飲むまいと思っても、つい飲んでしまうことが多いですか。 | はい・いいえ |
| 8. 周囲の人（家族、友人、上役など）から大酒飲みと非難されたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 9. 適量でやめようと思っても、つい飲みつづれるまで飲んでしまいますか。 | はい・いいえ |
| 10. 酒を飲んだ翌朝に、前夜のことをとところどころ思い出せないことがしばしばありますか。 | はい・いいえ |
| 11. 休日には、ほとんどいつも朝から酒を飲みますか。 | はい・いいえ |
| 12. 二日酔いで仕事を休んだり、大事な約束を守らなかったりしたことがときどきありますか。 | はい・いいえ |
| 13. 糖尿病、肝臓病、または心臓病と診断されたり、その治療を受けたことがありますか。 | はい・いいえ |
| 14. 酒がきれたときに、汗が出たり、手がふるえたり、いらいらや不眠など苦しいことがありますか。 | はい・いいえ |
| 15. 商売や仕事上の必要で飲みますか。 | よくある・ときどきある・めったにない |
| 16. 酒を飲まないで寝付けないことが多いですか。 | はい・いいえ |
| 17. ほとんど毎日3合以上の晩酌（ウイスキーなら1/4本以上、ビールなら大瓶3本以上）をしていますか。 | はい・いいえ |
| 18. 酒の上の失敗で警察のやっかいになったことがありますか。 | はい・いいえ |

19. 酔うといつも怒りっぽくなりますか。 はい・いいえ
20. 人に恩をきせられて、腹をたてたことはないですか。 はい・いいえ
21. 自分の飲み方は正常だと思いますか。 はい・いいえ
22. 飲酒した翌朝目覚めて前夜のことを思い出せなかった
ことがありますか。 はい・いいえ
23. 自分の飲酒について両親とか奥さんが心配したり
不平を言ったことがありますか。 はい・いいえ
24. 1～2杯の酒を飲んだ後、苦もなくそれ以上の飲酒を
中止することができますか。 はい・いいえ
25. 自分の飲酒についてうしろめたさを感じたことがありますか。 はい・いいえ
26. 友人とか親戚の方があなたを正常な飲酒者だと
みなしていますか。 はい・いいえ
27. 飲酒の場所と時間を一定にきめようと試みたことがありますか。 はい・いいえ
28. 飲酒を止めようと思えば何時でもやめられますか。 はい・いいえ
29. 断酒会の集会に出席したことがありますか。 はい・いいえ
30. 飲酒中争いにまきこまれたことがありますか。 はい・いいえ
31. 自分の飲酒によってあなたと奥さんの間に何か問題が起きた
ことがありますか。 はい・いいえ
32. 奥さんか家族の方があなたの飲酒についてどなたかに相談
に行ったことがありますか。 はい・いいえ
33. 飲酒によって友人または恋人を失ったことがありますか。 はい・いいえ
34. 飲酒が原因で、仕事中に問題をおこしたことがありますか。 はい・いいえ
35. 飲酒のために職を失ったことがありますか。 はい・いいえ
36. 飲酒のために1～2日間にわたり仕事や義務を怠ったり
家族の面倒をみなかつたりしたことがありますか。 はい・いいえ
37. 午前中に飲酒したことがありますか。 はい・いいえ
38. 肝臓が悪いとか、肝硬変と診断されたことがありますか。 はい・いいえ
39. 大量に飲酒後、振戦せんもう状態、つまり激しく震えたり
実在しないものが見えたり聞こえたりしたことがありますか。 はい・いいえ
40. 自分の飲酒についてどなたかに援助を求めにいったことが
ありますか。 はい・いいえ
41. 飲酒が原因で入院したことがありますか。 はい・いいえ
42. 飲酒問題にからんで、精神科病棟に入院したことがありますか。 はい・いいえ
43. 飲酒にからんだ心の問題から、保健所または医師のところに
相談にいたり、精神科を受診したりしたことがありますか。 はい・いいえ
44. 酔っ払い運転または酒気帯び運転のために警察につかまった
はい・いいえ

- ことがありますか。
45. 飲酒運転以外の酒の問題で警察につかまったことがありますか。 はい・いいえ
46. 自分のしたことを他人のせいにしたことはないですか。 はい・いいえ
47. 酒をやめる必要性を感じたことがありますか。 はい・いいえ
48. 医師に飲酒を止めるように言われたことがありますか。 はい・いいえ
49. 飲酒運転以外に酔っ払って問題をおこしたことがありますか。 はい・いいえ
50. 自分の知らないことを知らないと認めることは気にならない
ですか。 はい・いいえ
51. 一度に日本酒3合（ビールなら大瓶3本、焼酎なら2合）以上
飲酒することがありますか。 はい・いいえ
52. 酒に酔って、けがをしたことがありますか。 はい・いいえ
53. たとえ気にくわない人についても礼儀正しくしていますか。 はい・いいえ
54. 年令より老けてみられることが多いですか。 はい・いいえ
55. 目覚めは悪い方ですか。 はい・いいえ
56. 食事は1日3回ほぼ規則的にとっていますか。 はい・いいえ
57. 高血圧と診断されたことがありますか。 はい・いいえ
58. 朝や午前中に手が震えますか。 はい・いいえ
59. 脳出血または脳梗塞になったことがありますか
(6カ月以前を含む)。 はい・いいえ
60. 酒を飲まなければいい人だとよく言われますか。 はい・いいえ
61. 酒をひとりで飲むことがよくありますか。 はい・いいえ
62. 健康には注意している方ですか。 はい・いいえ
63. 胃の手術をしたことがありますか。(6カ月以前もふくむ)。 はい・いいえ
64. 食事をするときには、たとえ少量でもほとんどいつも
酒を飲みますか。 はい・いいえ
65. 食事をせずに、酒だけで1日を過ごすことがありますか。 はい・いいえ
66. 少なくとも週に1日は二日酔をしますか。 はい・いいえ
67. 酒に酔ってよく転びますか。 はい・いいえ
68. 酒に酔って腰が立たなくなることがありますか。 はい・いいえ
69. 酒に酔っておしっこをもらすことがありますか。 はい・いいえ
70. 酒に酔うとどこでも寝てしまいますか。 はい・いいえ
71. ほとんど毎日、日本酒で2合（ビールなら大瓶で2本、
焼酎なら1合半）以上飲んでいきますか。 はい・いいえ
72. お酒を飲むと周囲の人（孫や子供など）が離れていきますか。 はい・いいえ
73. 人との付き合いが減ってきましたか。 はい・いいえ
74. 酒のために生活のリズムが乱れていると感じていますか。 はい・いいえ

75. 最近怒りっぽいですか。 はい・いいえ
76. 酒の量を減らそうとしたり、酒を止めようと試みた
ことがありますか。 はい・いいえ
77. 飲酒量が増えていますか。 はい・いいえ
78. 飲み過ぎて、2日以上食事がとれなくなったことがありますか。 はい・いいえ

飲酒習慣と健康に関する疫学研究

分担研究者 角田 透 杏林大学医学部衛生学教室 助教授

研究要旨：沖縄県S町における継年的な調査研究の資料から飲酒習慣と健康との関わりについて検討した。今回は飲酒習慣と住民検診時の循環器関連の指標との関係について分析を試みた。少量飲酒者は非飲酒者に比べ住民検診における循環器検査成績が相対的に良好であることが示唆された。

A. 研究目的

健康に対するさまざまな要因の影響を評価するには断面的な資料だけでなく、継続的な観察による資料について解析することが有用である。ある時点での飲酒習慣がその後の10年間にける健康診断に際し実施された循環器関連の検査項目の総合的な成績評価とどのように関連するかを明らかにすること。

B. 研究方法 昭和61年の沖縄県佐敷町住民検診時の飲酒習慣についての聞き取り資料のうち「まったく飲まない」、「ときどき飲む」、および「飲む」のいずれかに回答した受診者のうち平成7年までの10回の住民検診の受診の機会のうち3回以上受診した者245名（男性76名、平均年齢 64.22 ± 11.54 歳、女性169名、平均年齢 61.89 ± 10.47 歳）を解析の対象とした。本研究では検診時の結果通知の項目のうち高血圧（「高血圧疑い」および「高血圧」の2項目）、血清脂質（「高中性脂肪」、「高コレステロール」および「低HDLコレステロール」の3項目）、および心電図（「心電図軽度異常」および「心電図異常」の2項目）に関連する7項目に着目し、それらの項目の成績評価を「異常なし」、「要観察」、「要指導」、「要治療」に相当する判定をそれぞれ0, 1, 2, 4点と点数化し、その合計点をその年度の検診時の循環器関連の検査項目の成績評価とみなし、その平均点を10年間の循

環器関連検査項目の成績評価とした。この成績評価を従属変数、昭和61年時の年齢を共変量とし、性別（「男性」、「女性」の2水準）、飲酒（昭和61年時の問診票から「飲む」、「ときどき飲む」および「飲まない」の3水準）、および喫煙（「1日11本以上」、「1日10本以下」、および「すわない」の3水準）を要因とする分散分析および多重分類分析表により検討した。

C. 研究結果 表1に示した分散分析の結果にあるように、性別および喫煙のいずれについても統計的な有意性は認められなかったが、飲酒については有意な関連が認められた。表2に多重分類分析表の結果を示したが、他の要因について補正した値の総平均からの差は、飲酒については「飲まない」と回答していた群は他の2群、すなわち「ときどき飲む」および「飲む」と回答していた群に較べて循環器関連の指標の成績評価の点数は高く、言い換えれば、循環器関連の検査成績は悪かった。喫煙については僅少差であったが、「すわない」とする群が他の群に較べて循環器関連の健康状態の評価は悪く、性別では女性は男性に較べて成績評価は悪かった。ただし、喫煙および性別についてはいずれも統計的な有意性をともなうものではなく、この結果だけで評価することは出来ない。

D. 考察 住民検診時における問診は必ずしも同一の問診者が聞き取りを行っているとは限ら

ない。従って、聞き取り者間の差異を考慮しなければならない。また、検査機関は10年間の間、同一の機関であったが、検査手技については同一人が同一の手法により実施していたとは考えにくい。また、検査結果に対する評価も同一の医師が常に同一の考え方で行っていたとは考えにくい。こうしたいくつかの問題点はあるが、検査結果に対する評価は、健康診断の結果判定としての一定の基準のあるものであり、これについては比較可能であるとしてよいであろう。結果としては、飲酒するものが飲酒しないものに較べて循環器指標の評価はより健康的であるということであったが、飲酒の量については不明であった。この地区の検診対象者の飲

酒量については詳細な集計は実施されていないが、問診時の経験では平均的にみて比較的少量である。従って、従来からの比較的少量の飲酒が循環器に対してよい影響のあるとする報告と同様のものではあったと考えている。ただし、今回の検討は10年間の最初における飲酒の状況とその後10年間における循環器関連の健康状態の評価との関連についてであり、10年間の成績評価の傾向（例えば「よくなって行く」方向なのか、「悪くなって行く」方向なのか）や飲酒習慣の変化等についての情報が組み入れられていない。資料はそうした情報についても収集されており、今後はそのような検討を続けて行く予定である。

表1 分散分析表

要因	平方和	自由度	平均平方和	F	p
共変量					
年齢					
主効果					
性別	0.071	1	0.071	0.082	.776
飲酒	7.725	2	3.863	4.452	.013
喫煙	0.577	2	0.289	0.333	.717
相互作用					
性別*飲酒	0.252	2	0.126	0.145	.865
性別*喫煙	2.084	2	1.042	1.201	.303
飲酒*喫煙	1.772	4	0.443	0.511	.728
残差	199.549	230	0.868		

表2 多重分類分析表

総平均 = 0.81			
要因の水準	n	補正前の 総平均からの差	補正後の 総平均からの差
性別			
男性	76	-0.03	0.26
女性	169	0.01	-0.12
飲酒			
飲む	20	-0.23	-0.45
ときどき	34	-0.27	-0.49
飲まない	191	0.07	0.13
喫煙			
11本以上	32	-0.08	-0.04
10本以下	19	-0.12	-0.16
すわない	194	0.02	0.02

研究成果の刊行についてですが、現在のところ以下の学会発表（予定）のみです。

角田 透、照屋 浩司、松井 知子、大嶺 智子、松田、百玉、武田 伸郎、田村 ひろみ、竹前 健彦、古見 耕一：飲酒頻度と循環器関連検査成績との関連 —— 10年間の検診成績からの検討 ——、日衛誌、54（1）：269、1999

厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）
分担研究報告書

否認スケールの開発に関する研究

分担研究者 猪野亜朗 三重県立高茶屋病院

研究要旨 アルコール依存症の治療において、否認の克服は必要不可欠である。しかし、今までのところ、彼らのしめす否認を客観的に評価する方法が存在しなかった。本研究は3年間で、このスケール作成を目標としている。今年度は、まず患者用の予備調査票を作成し、調査を行なった。その結果、このスケールを用い、否認の強い治療初期群と治療の進んだ断酒会員とを判別できる可能性が示唆された。予備調査の結果をもとに、本調査用の調査票（患者用、家族用、治療者、インターベンション関連）の作成を行ない、調査を3月から開始した。

A. 研究目的

飲酒問題への否認、アルコール依存症への否認を客観的に測定できる「否認のスケール」の作成することを目標とする。これが実現すれば、治療予後の判定、治療課題の設定が可能となる。また、治療プログラムの効果を客観的に測定することも可能になる。患者、家族の治療への動機付けにも役立つ。

B. 研究方法

1) 研究対象

県立高茶屋病院の初診の患者および、入院中、通院中の患者、断酒会員。これらの家族も平行して調査対象とする。調査期間を設定し、その期間の外来患者と入院患者の全てに実施する。調査期間において例会に参加した断酒会員全員に実施する。

2) 実施方法

未治療の患者を一方の群とする。他方に断酒が安定している群をとる。その両者から判別点を求め、軽度、重度の判別点も統計的に求める。一方で、どの時点から安定群と把握するかは課題もあるので、断酒期間

を連続的にとることとする。

上記より、外来初心者、入院当初の患者（いずれも初診後1週間以内で、答えがほぼ正確に可能となっていると判断できる者）にシラフの状態にて実施する。同時に、意識清明であり、認知障害、記憶障害が著しい患者は後程除外できるようにする。

患者用…予備テストによって、質問項目と質問方法について一応の目途がたった。これをもとに、整理して正式の質問紙を作成する。サブスケールを以下のように作成する。

飲酒問題の否認/A

病気の否認/B

飲酒問題の気付き/C

病気の気付き/D

これらを統計的に処理して判別に有効な質問項目を抽出する。最も大きく判別出来る「重み付け」を林の数量化理論ないしは正規分布であれば、判別式によって求める。尚、未治療群と断酒安定群の両群間で判別する方法と、前向き調査で6ヶ月後、

1年後に断酒群、飲酒群で判別する方法、または自助グループ、治療実行群とそうでない群での判別の方法を考える。軽度の否認、重度の否認、浅い気付き、深い気付きを判別出来る可能性がある。

信頼性、妥当性の検討を行い、スケールの標準化を行う。

家族用…本人用と同じように作成していくがサブスケールは次の通りである。

飲酒問題の否認/A

飲酒問題の気付き/B

癒す力が有る/C

癒す力が無い/D

病気の理解有る/E

病気の理解がない/F

自分の問題への自覚が有る

/G

患者に気付かせる力有る/

H

患者に気付かせる力無い/I

患者用と家族用で同じ質問項目を作っている。この部分は患者の否認を浮き彫りに出来る可能性がある。

スタッフ用…主観的要素を出来る限り除外して客観的に把握する質問項目を作成する。これが患者用のスケールと一致するかどうかで、患者用のスケールの妥当性の検証にもなる。

3) 予備調査

本調査を開始する前に、今年度は予備調査票を作成して、本人に対して調査を行なった(調査票別添)。調査項目は、68項目からなり、対象者は、断酒会会員9名、治療開始直後の患者13名である。調査は自記

式で、期間は1999年12月1日から同年同月31日までであった。

4) 本調査

以上のパイロットスタディーの結果を踏まえ、3月1日より、三重断酒新生会、県立高茶屋病院のアルコール外来・病棟の協力で調査が開始されている。本調査用の調査票は別添の通りである。

C. 調査結果および考察

1) 調査票の作成

本人用、家族用、スタッフ用の調査票を作成した。調査票は上記の原則に従っている。質問項目は、本人用が52項目、家族用が52項目、スタッフ用が40項目からなる。また、退院前インターベンションの効果を評価する目的で21項目からなるインターベンション関連用調査票も合わせて作成した。本人用調査票は、今年度実施したパイロット研究の結果をもとにして作成した。具体的には、以下のような点に留意して作成した。

a) 空欄になっていることの多い設問があり、答えにくい設問と考えられるので、これは削除した。

b) 断酒時期によって、断酒にとって正しい行動が変化してくるがこのような項目は削除した。

c) 否認の項目で、断酒安定群が治療初期群よりも得点平均が高い項目、気付きの項目で、治療初期群よりも断酒安定群が高い項目があった。これは仮説に反するが、対象者数が増えることで変化することも考えられるし、重み付けによって役立てる事も可能なので、幾つかの項目は本調査に残すことにした。

2) 予備調査結果

否認を示す項目の得点の単純合計、気付きを示す項目の得点の単純合計の比較によ

っても、多くの対象者を判別しているの
このスケールが有効である可能性の
ことが示唆されていると考えた。勿
論、対象数が非常に少ないので、
結論的なことは言えない。対象
者個々の、「気付き」の得点、「
否認」の得点を以下の表に示した。

気付きの得点を単純合計した後、
仮に93点以下を「気付き有り」
のカットオフ点にすると、役員
群は8人が「気付き有り」と判
別され、「気付き無し」は1人の
みであった。治療初期群では
10人は「気付き無し」と判定
され、「気付き有り」は3人であ
った。

否認の得点を単純合計した後、
仮に36点以下を「否認あり」
のカットオフ点にすると、役員
群は7人は「否認なし」と判定
され、「否認あり」は2人であ
った。治療初期群では、10
人は「否認あり」と判定され、
「否認なし」は3人であった。

判別式を作成すれば、もっと精
度を高める事が可能であると思
える。

これらに基づいた本調査での変
更点

1. 項目数を減らすことが出来た。
2. 設問の意図をより明確に出来た。
3. 有効性の可能性が高くなったので、調査実施にあたり関係者の協力が得やすくなった。

設問項目への回答の表現を変
えて、英語版にも対応を容易
にした。

治療初期群

	気付きの得点	否認の得点
No 1	133	32
2	85	30
3	95	27
4	126	27
5	106	33
6	114	38
7	110	25
8	74	43
9	93	38
10	93	32
11	71	30
12	127	30
13	114	26

断酒会役員群

	気付きの得点	否認の得点
No 1	54	27
2	81	38
3	72	43
4	74	37
5	109	34
6	56	38
7	63	47
8	92	44
9	59	36

(調査票—予備調査票)

お酒についてのあなたの考え (仮のテスト)

名前 _____ 年齢 _____ 断酒期間 _____ 家族 (配偶者と同居、配偶者以外と同居、独居)

次の質問についてあなたに当てはまる数字を記入して下さい。

(1) 非常に強く思う, (2) 強く思う, (3) 少し強く思う, (4) 全く強く思わない

- 1 ○酒で家族に迷惑をかけて、申し訳ない。()
- 2 ○お酒によって子供に辛い思いをさせた。()
- 3 ○お酒の問題で家族に迷惑をかけたのに、家族は私のことを良く面倒見てくれた。()
- 4 ○自分のお酒の問題は深刻だった。()
- 5 ○家族や周囲の人は自分のお酒の問題を大げさに言い過ぎる。()
- 6 ○アルコール依存症を治す機会を与えてくれた家族や周囲の人に感謝している。()
- 7 ○断酒の必要性を明確に理解した。()
- 8 ○お酒の問題が自分よりひどい人が一杯いる。()
- 9 ○断酒の必要性が具体的に分かってきた。()
- 10 ○お酒は楽しみもあったが、苦しみの方が多かった。()
- 11 ○お酒を飲んできたのは、家族や周囲の人に多くの問題があったからである。()
- 12 ○自分の酒は陽気な酒である。()
- 13 ○家族のために頑張っていると思っていたが、実はお酒によって出来ていなかった。()
- 14 ○周囲の人にアルコール依存症であることを宣言する心の準備が出来た。()
- 15 ○一杯の酒で元通りのひどい状態になる。()
- 16 ○無茶なお酒の飲み方をして来た。()
- 17 ○飲んででも周囲に迷惑をかけない静かな酒であった。()
- 18 ○お酒なしで生きることを考えると不安や恐怖感がある。()
- 19 ○これまでお酒を手に入れるために嘘をついた。()
- 20 ○お酒で家族に苦勞をかけてきた。()
- 21 ○お酒で家族や周囲の人を苦しめた。()
- 22 ○私の酒は悪い酒だ。()
- 23 ○ブラックアウトのため、飲んでいた時の記憶が次の日に抜けていたので、これはいかんと思った。()
- 24 ○お酒を飲み過ぎたのは自分も悪かったが、家族も悪い点が一杯あった。()
- 25 ○隠れ飲みの秘密を打ち明ける事が出来た。()
- 26 ○酒席や飲む危険のある所は避ける。()
- 27 ○家族がうるさいので別れて気楽に生活したい。()
- 28 ○家族が変われば、私は酒が止められる。()
- 29 ○自分のお酒の問題を具体的に語れるようになった。()
- 30 ○自分がしでかした誰も知らないお酒の出来事を例会場の仲間や、スタッフに語れるようになった。()
- 31 ○飲んでいてもお酒を止めようと思えば、何時でも止める事が出来る。()
- 32 ○期限を切って断酒する。()
- 33 ○酒の弊害について、自発的に話せるようになった。()
- 34 ○これまでの私の失敗や苦勞の多くはお酒が原因だった。()

- (1) 大いにそう思う, (2) かなりそう思う, (3) 少しそう思う, (4) そう思わない
- 35 ○節酒できる自信がある。()
- 36 ○家族にお酒で迷惑をかけたが、回数は少ない。()
- 37 ○アルコール依存症を治すために、具体的な努力を続けている。()
- 38 ○私は断酒せねばならない理由を具体的に述べる事が出来る。()
- 39 ○お酒で職場に随分迷惑をかけた。()
- 40 ○自分がアルコール依存症であると考え、苦痛や自己嫌悪を感じる。()
- 41 ○酒で周囲の人が嫌がる事をしてきた。()
- 42 ○ブラックアウトの間の出来事を、本当にあったのだと思えるようになった。()
- 43 ○お酒で他の人を傷つけたり、無責任になったり、皆の世話が出来なかった。()
- 44 ○私のお酒の問題の特徴はアルコール依存症の特徴と一致する。()
- 45 ○今、断酒していて良かった。()
- 46 ○断酒することは良いことだ。()
- 47 ○周囲の人が自分のお酒について気遣っていたり、心配してくれている。()
- 48 ○家族に償いをしなければならない。()
- 49 ○断酒する事が今後の人生の基礎である。()
- 50 ○断酒会に出るために、生活の工夫をするつもりだ。()
- 51 ○一杯のお酒がアルコール依存症の再発になる。()
- 52 ○家族が私のお酒の問題に触れると、私は不愉快になる。()
- 53 ○お酒を止めて良かった理由を具体的に喜びを持って言う事が出来る。()
- 54 ○今の自分に最も重要な課題はアルコール依存症を治すことである。()
- 55 ○アルコール依存症になった「原因」を捜そうとしても無意味だ。()
- 56 ○お酒によって、自分の大切にしてきたものを駄目にして来た。()
- 57 ○断酒してみて初めて、家族に苦勞をかけていたことが分かった。()
- 58 ○断酒してみて家族が明るくなったので、初めてお酒が家族の気持ちを暗くしていたことが分かった。()
- 59 ○体をこわしたのはお酒のせいだ。()
- 60 ○断酒したので、家族が私に良く話しかけるようになった。()
- 61 ○私には大したお酒の問題はないのに、家族はお酒を止めさせようとばかりした。()
- 62 ○お酒の問題のせいだったのに、家族は自分に冷たく、責めてばかりいると逆恨みしていた。()
- 63 ○家族にお酒で辛い思いはさせていないと、私は思い違いをしていた。()
- 64 ○私のお酒の問題で家族は泣く程辛い思いをしていたと思う。()
- 65 ○お酒は飲んだ時だけは良いが、人生を振り返ってみるとお酒で損をした方が多い。()
- 66 ○お酒では家族に随分と心配をかけた。()
- 67 ○家族はお酒の問題があったのに、良く辛抱してくれた。()
- 68 ○手のふるえに気付いたとき、これはイカンと思った。

これはまだ試作段階のテストです。回答困難な点、不都合な点があったら、教えて下さい。

ご協力有り難うございました。

(調査票一本調査用)

「あなたのお酒の問題」について尋ねます
名前 () 年齢 () 断酒期間 () 年 ヶ月, 入院中, これから断酒)

[1 = 非常に強く思う : 2 = 強く思う : 3 = 余り強くは思わない : 4 = 全く思わない]

次のA. からAZ. までの項目について、あなたに当てはまる数字に○を付けて下さい。

- A. 無茶なお酒の飲み方をして来た(1 : 2 : 3 : 4)
- B. 私のお酒の問題は深刻だった(1 : 2 : 3 : 4)
- C. 治療を受け始めた頃には、「お酒を飲むこと」が生活の中心になっていた。
(1 : 2 : 3 : 4)
- D. お酒で家族や周囲の人に苦勞をかけてきた(1 : 2 : 3 : 4)
- E. お酒によって子供に辛い思いをさせた(1 : 2 : 3 : 4 : 子供無し)
- F. 私の酒は陽気な酒であった(1 : 2 : 3 : 4)
- G. 私のお酒は、家族や周囲の人には許される範囲だ(1 : 2 : 3 : 4)
- H. 飲んでも周囲に迷惑をかけない静かな酒であった(1 : 2 : 3 : 4)
- I. 私はお酒を飲んでいていた当時でも、すべき事はやって来た(1 : 2 : 3 : 4)
- J. 節酒できる自信がある(1 : 2 : 3 : 4)
- K. 家族や周囲の人にお酒で迷惑をかけたが、その回数は少なかった(1 : 2 : 3 : 4)
- L. お酒が原因で仕事に影響が出て周囲に随分迷惑をかけた(1 : 2 : 3 : 4 : 就労無し)
- M. 治療を受け始めた頃には、自己中心的で、無責任になっていた(1 : 2 : 3 : 4)
- N. お酒によって、私の大切にしてきた家族、仕事などを駄目にしてきた(1 : 2 : 3 : 4)
- O. 断酒してから家族が明るくなったので、初めてお酒が家族の気持ちを暗くしていたことを知った(1 : 2 : 3 : 4 : 家族無し)
- P. 体をこわしたのはお酒のせいだ(1 : 2 : 3 : 4)
- Q. 私のお酒の問題で家族や周囲の人は泣く程辛い思いをしていた(1 : 2 : 3 : 4)
- R. お酒では家族や周囲の人に心配をかけた(1 : 2 : 3 : 4)
- S. 家族や周囲の人はお酒の問題があったのに、良く辛抱してくれた(1 : 2 : 3 : 4)
- T. お酒を飲むと、荒々しい言動で家族や周囲の人に恐怖を与えてきた(1 : 2 : 3 : 4)
- U. お酒で家族や周囲の人に迷惑をかけて、申し訳なかった(1 : 2 : 3 : 4)
- V. 私のお酒の問題で家族や周囲の人に迷惑をかけたのに、家族や周囲の人は私のことを良く面倒見てくれた(1 : 2 : 3 : 4)
- W. アルコール依存症を治す機会をくれた家族や周囲の人に感謝している(1 : 2 : 3 : 4)
- X. 断酒の必要性が具体的に分かってきた(1 : 2 : 3 : 4)
- Y. お酒は楽しみもあったが、苦しみの方が多かった(1 : 2 : 3 : 4)
- Z. 断酒したことを私の関係する人に宣言する心の準備が出来た(1 : 2 : 3 : 4)
- AA. 酒を止めていても、最初の一杯の酒を飲むと、やがて酒量が増え、最後には元通りのひどい状態になる(1 : 2 : 3 : 4)
- AB. 家族や周囲の人は私のお酒の問題を大げさに言っていた(1 : 2 : 3 : 4)
- AC. お酒は私も悪かったが、家族や周囲の人も悪い点が一杯あった(1 : 2 : 3 : 4)
- AD. 家族や周囲の人が変われば、私は酒が止められる(1 : 2 : 3 : 4)
- AE. 飲んでいてもお酒を止めようと思えば、何時でも止める事が出来た(1 : 2 : 3 : 4)

- AF. 飲んでも、次の日から止めれば良い(1 : 2 : 3 : 4)
- AG. 今度飲む時は上手に飲めるだろう(1 : 2 : 3 : 4)
- AH. 私には大したお酒の問題はないのに、家族や周囲の人はお酒を止めさせようとした。
(1 : 2 : 3 : 4)
- AI. 酒席や飲む危険のある所は避ける(1 : 2 : 3 : 4)
- AJ. 私のお酒の問題を具体的に語れるようになった(1 : 2 : 3 : 4)
- AK. これまでの私の失敗や苦勞の多くはお酒が原因だった(1 : 2 : 3 : 4)
- AL. アルコール依存症を治すには、具体的な努力が必要だ(1 : 2 : 3 : 4)
- AM. 私のお酒の問題の特徴はアルコール依存症の特徴と一致する(1 : 2 : 3 : 4)
- AN. お酒で迷惑をかけたので、家族や周囲の人に償いをしなければならない。
(1 : 2 : 3 : 4)
- AO. 断酒する事が今後の人生の基礎である(1 : 2 : 3 : 4)
- AP. 断酒を続けるために、飲んでいた頃の生活習慣を変える必要がある(1 : 2 : 3 : 4)
- AQ. 断酒出来ていることが嬉しい(1 : 2 : 3 : 4)
- AR. 今の自分に最も重要な課題はアルコール依存症を治すことである(1 : 2 : 3 : 4)
- AS. 断酒してみて初めて、家族や周囲の人に苦勞をかけたことが分かった(1 : 2 : 3 : 4)
- AT. 断酒したので、家族や周囲の人が私に良く話しかけるようになった(1 : 2 : 3 : 4)
- AU. お酒の問題のせいだったのに、家族や周囲の人は私に冷たく、責めてばかりいると逆恨みしていた(1 : 2 : 3 : 4)
- AV. 家族や周囲の人にお酒で辛い思いをさせていないと、私は思い違いをしていた。
(1 : 2 : 3 : 4)
- AW. 人生を振り返ると、お酒で得したことより、損をした方が多い(1 : 2 : 3 : 4)
- AX. 自分から進んで、お酒の病気を治すために受診した(1 : 2 : 3 : 4)
- AY. 何度もお酒を止めようと思ったことがある(1 : 2 : 3 : 4)
- AZ. 手のふるえに気付いたとき、これはイカンと思った(1 : 2 : 3 : 4)
- ご協力有り難うございました。

お酒の問題と家族

あなたの名前 _____、年齢 _____ 歳。本人（患者のこと）の名前 _____

あなたは本人の（配偶者、親、子供、孫、兄弟、その他）に当たる。

[1 = 非常に強く思う : 2 = 強く思う : 3 = 余り強くは思わない : 4 = 全く思わない]

次のA. からAZ. までの項目について、あなたに当てはまる数字に○を付けて下さい。

- A. 本人は無茶なお酒の飲み方をしていた(1 : 2 : 3 : 4)
- B. 本人のお酒の問題は深刻だった(1 : 2 : 3 : 4)
- C. 治療を受け始めた頃には、「お酒を飲むこと」が本人の生活の中心になっていた。
(1 : 2 : 3 : 4)
- D. 私は本人のお酒で苦勞をした(1 : 2 : 3 : 4)
- E. 本人のお酒は子供に辛い思いをさせた(1 : 2 : 3 : 4 : 子供無し)
- F. 本人の酒は陽気な酒であった(1 : 2 : 3 : 4)
- G. 本人のお酒は私には許せる範囲であった。(1 : 2 : 3 : 4)
- H. 本人は飲んでも周囲に迷惑をかけない静かな酒であった(1 : 2 : 3 : 4)
- I. 本人がお酒を飲んでいた当時でも、本人がすべき事は本人がしていた(1 : 2 : 3 : 4)
- J. これまでの飲み方を見ると、本人は節酒（一定量で抑えた飲み方の維持）が可能だ。
(1 : 2 : 3 : 4)
- K. 本人の飲酒で迷惑を受けたが、その回数は少なかった(1 : 2 : 3 : 4)
- L. 本人の飲酒が原因で、仕事に影響が出て周囲に随分迷惑をかけた。
(1 : 2 : 3 : 4 : 就勞無し)
- M. 治療を受け始めた頃には、本人は自己中心的で、無責任になっていた(1 : 2 : 3 : 4)
- N. 本人が大切にしてきた家族や仕事などをお酒によって駄目にした(1 : 2 : 3 : 4)
- O. お酒の問題があった頃、私の気持ちは暗くなっていたと思う(1 : 2 : 3 : 4 : 家族無し)
- P. 飲酒のせいで、本人は体をこわした(1 : 2 : 3 : 4)
- Q. 本人の飲酒の問題があった頃、泣く程辛い思いをしていた(1 : 2 : 3 : 4)
- R. 本人の飲酒の問題では随分と心配をしてきた(1 : 2 : 3 : 4)
- S. 本人にお酒の問題があった頃、私は良く辛抱していた(1 : 2 : 3 : 4)
- T. 本人にお酒の問題があった頃、本人の荒々しい言動に私は恐怖感を持っていた。
(1 : 2 : 3 : 4)
- U. 飲酒の問題の具体的な事実を本人に提示出来る勇気を私は持っている。
(1 : 2 : 3 : 4)
- V. 過去のお酒の問題について許せず、私は今でもすぐ怒ってしまう。(1 : 2 : 3 : 4)
- W. 過去のお酒の問題でくたくたになり、私は今でも燃え尽きている。(1 : 2 : 3 : 4)
- X. 私は本人に拒絶的な言葉を言ってしまう。(1 : 2 : 3 : 4)
- Y. 本人にお酒の問題があった頃、お酒の後始末、本人の肩代わりをしていた。
(1 : 2 : 3 : 4)
- Z. お酒をやめさせようと、私は本人をコントロールしていた。(1 : 2 : 3 : 4)
- AA. 本人が様々なストレスの中で、アルコールに回避してきたことや、本人にはアルコール依存症の病気の苦しみもあったことを理解できる。(1 : 2 : 3 : 4)

- AB. 私にはお酒の病気に巻き込まれないでいる勇気がある。(1 : 2 : 3 : 4)
- AC. お酒の問題で苦しんだ過去の気持ちを「私はこうだった」と悲しみの涙や悲しみの感情を込めて本人に語ることが出来る。(1 : 2 : 3 : 4)
- AD. シラフの本人には、良い点、長所がある。(1 : 2 : 3 : 4)
- AE. 病気としての理解が出来た事を本人に伝え、具体的に協力できる(1 : 2 : 3 : 4)
- AF. 私は自分の不健康な部分があることを本人に認め、断酒会、治療プログラムへの参加で修正していく決意を表明できる(1 : 2 : 3 : 4)
- AG. 治療者がいれば、私は勇気を出して本人にお酒の問題がある事を示せる。
(1 : 2 : 3 : 4)
- AH. 私は断酒を強く切望出来ず、節酒でも仕方ないという気持ちがある(1 : 2 : 3 : 4)
- AI. 周囲にいる人々は本人の病気を理解せず、私のせいにする (1 : 2 : 3 : 4)
- AJ. 本人に対する私の暖かい気持ちを本人に伝えることができる(1 : 2 : 3 : 4)
- AK. 本人のシラフの状態、病気でなかった状態を「良かった」と私は評価できる。
(1 : 2 : 3 : 4)
- AL. シラフの本人を私は尊敬出来る(1 : 2 : 3 : 4)
- AM. 本人はお酒の病気であったと、私は理解するようになった(1 : 2 : 3 : 4)
- AN. 本人への気遣いの気持ちや本人が希望することに沿ってあげたいという気持ちを私は持っている(1 : 2 : 3 : 4)
- AO. 私は本人の過去のお酒の問題を思い出すのが嫌で、思い出せない(1 : 2 : 3 : 4)
- AP. 飲みさえしなければ良いと本人のお酒の問題を私は過少評価してしまう
(1 : 2 : 3 : 4)
- AQ. 私はシラフの本人を好きだと本人に伝える事が出来る(1 : 2 : 3 : 4)
- AR. 私は病気に屈しないことの大切さを自覚している(1 : 2 : 3 : 4)
- AS. 本人のお酒の問題のために、私は今でも心の中で本人を拒絶している(1 : 2 : 3 : 4)
- AT. 飲んでいた頃、本人の飲酒の言い訳を信じてしまっていた(1 : 2 : 3 : 4)
- AU. お酒の問題が忘れられず、本人に対する恨みの気持ちがある(1 : 2 : 3 : 4)
- AV. 本人は再び飲むのではないかと私には不安や不信がある(1 : 2 : 3 : 4)
- AW. 私は本人の断酒の苦しみを理解できるし、そのための苦勞を共に乗り越えていきたい
(1 : 2 : 3 : 4)
- AX. 本人が治療を受けてくれたことに本人への感謝の気持ちがある(1 : 2 : 3 : 4)
- AY. 私はお酒で苦勞してきたが、本人の病気が苦勞の原因だったと許せる(1 : 2 : 3 : 4)
- AZ. 断酒のための本人の苦勞に対して、ねぎらったり、慰めたり、励ましてあげる事が出来る
(1 : 2 : 3 : 4)

インターベンション関連の否認のスケール

患者の名前

年齢

[1 = 非常に強く思う : 2 = 強く思う : 3 = 余り強くは思わない : 4 = 全く思わない]
(インターベンションの中を中心に)

- A. 患者は情緒的表現を込めて、家族に悪かった事を表明できた(1:2:3:4)
- B. 患者は家族のメッセージに情緒的な反応がなかった(1:2:3:4)
- C. 患者はそんなこと分かっていると知的否認を示した。病気が不安や悲しみを家族にもたらしてきたという情緒的な問題としての理解やその人との関連での病気の理解がない。
(1:2:3:4)
- D. 患者は情緒的反応で、涙を流した(1:2:3:4)
- E. 患者は覚えがないことがあったと表明した(1:2:3:4)
- F. 患者は「妻や周囲にも責任がある」と主張した(1:2:3:4)
- G. 患者は家族の苦悩に共感出来なかった(1:2:3:4)
- H. 患者はブラックアウトがあったことを認めた(1:2:3:4)
- I. 患者は入院を恨みに思っていた事を認めた(1:2:3:4)
- J. 患者は指摘された事実について自己弁護や家族への非難した(1:2:3:4)
- インターベンション後
- K. 患者は確認面接においても、自己弁護をした(1:2:3:4)
- L. 治療者の心が揺さぶられ、涙をこらえた(1:2:3:4)
- M. 患者は認知障害が強くて、記憶に残っていなかった(1:2:3:4)
- N. 患者は認知障害が強くて、メッセージを歪めて取った(1:2:3:4)
- O. 患者はインターベンションの場面を鮮明に覚えていた(1:2:3:4)
- P. 患者はインターベンションのメモを大切にしまっていた(1:2:3:4)
- Q. 患者は指摘された事実について自己弁護や家族への非難をした(1:2:3:4)
- R. スタッフが情緒的に揺り動かされた部分で、患者は感じていなかった(1:2:3:4)
- S. 患者は治療プログラム、自助グループへの参加を強めた(1:2:3:4)
- T. 患者は抗酒剤の服薬コンプライアンスを高めた(1:2:3:4)
- U. 家族の協力度が高まり、家族の断酒会参加、通院、電話連絡が増えた(1:2:3:4)

スタッフによる退院時用否認スケール

患者の名前

年齢

[1 =非常に強く思う : 2 =強く思う : 3 =余り強くは思わない : 4 =全く思わない]

- A. 患者は抗酒剤をごまかす傾向がある(1 : 2 : 3 : 4)
- B. 患者は治療者の知らなかった飲酒問題の事実を自ら語り始めた(1 : 2 : 3 : 4)
- C. 患者はスタッフへのネガティブな感情がある(1 : 2 : 3 : 4)
- D. 患者は治療場面で、治療者から遠隔場所に座っていた(1 : 2 : 3 : 4)
- E. 患者は一般的には飲酒問題を認めるが、具体的には認めていない(1 : 2 : 3 : 4)
- F. 患者は短気である(1 : 2 : 3 : 4)
- G. 患者は体験発表を、他人事のように聴く。(1 : 2 : 3 : 4)
- H. 患者が抱えている現在の問題を飲酒との関連で考えることが出来る(1 : 2 : 3 : 4)
- I. 患者は飲んできた「原因」を捜して、言い訳をする(1 : 2 : 3 : 4)
- J. 患者は断酒せねばならない理由を身体的理由を除き具体的に述べる事が出来る。
(1 : 2 : 3 : 4)
- K. 断酒の理由を家族との関連で把握している(1 : 2 : 3 : 4)
- L. 患者に生じている問題を、夫婦問題や職業上の問題、神経症などのせいにする。
(1 : 2 : 3 : 4)
- M. 患者は飲酒を止めたための空白を新しい活動や友人で満たす必要性を理解している。
(1 : 2 : 3 : 4)
- N. 患者は自分の存在理由が飲酒によって失なわれていたことに気付いている。
(1 : 2 : 3 : 4)
- O. 患者は断酒の喜びを具体的に述べる
- P. 患者は断酒して初めて、家族が話しかけたり、明るくなることに気付いて、家族の辛さが理解できた(1 : 2 : 3 : 4)
- Q. 患者は家族に対して償いの気持ちのあることを述べる(1 : 2 : 3 : 4)
- R. アルコール依存症の初診時、自ら進んで受診した(1 : 2 : 3 : 4)
- S. 入院生活を自分で進んで受けている(1 : 2 : 3 : 4)
- T. 早く退院すると焦った(1 : 2 : 3 : 4)
- U. 治療プログラム参加にネガティブであった(1 : 2 : 3 : 4)
- V. ネガティブ集団に近い(1 : 2 : 3 : 4)
- W. 入院中もギャンブル依存の傾向があった(1 : 2 : 3 : 4)
- X. 強度の強迫性がある(1 : 2 : 3 : 4)
- Y. 外的プレッシャー(離婚、別居、解雇など)が強い(1 : 2 : 3 : 4)
- Z. 強度の認知障害がある(1 : 2 : 3 : 4)
- AA. 患者の直接的な言動から断酒する気持ちがないと感じる(1 : 2 : 3 : 4)
- AB. 自助グループについて、ネガティブである(1 : 2 : 3 : 4)
- AC. 重複障害がある(1 : 2 : 3 : 4)
- AD. 安定した就労の場がある(1 : 2 : 3 : 4)
- AE. 夫婦関係は安定している(1 : 2 : 3 : 4)